

空瓶リユースからリサイクルへ変更いたします。

平成27年5月11日
株式会社ベアレン醸造所

この度、時間をかけ社内で調査、検討してまいりまして、近年の資源リサイクルの状況と輸送を含めた総合的な環境負荷を考慮した結果、軽量ワンウェイびんを使用し消費地でカレットとしてリサイクルの方が環境負荷が小さいと判断し、今まで行ってまいりました空瓶の処理を、リユースからリサイクルへと変更することといたしました。詳細につきましては、下記をご参照ください。

変更のポイント

- 宅配便を使用しての空瓶回収を取りやめます。
- 盛岡市内の回収は継続いたしますが、全量をカレットリサイクルにします。
- 工場持ち込みの空ビン代は廃止いたします。
- 製品生産1本につき1円を岩手県内の環境保護に対して寄付を行います。

実施時期:平成27年6月1日より

■経緯

環境への配慮を経営理念に掲げる当社では、創業当時より空瓶の回収、リユースを進めてまいりました。しかし、昨今の宅配便業者の大幅な値上げにより、当社においては昨年、配送費用が前年比140%と大幅にアップいたしました。これは、コストがかかるということはそれだけ資源を使っているということではないかと考える契機になりました。また、個別の製品の製造だけではなく、輸送等全体を含めて環境負荷を考える手法が一般的になってきたこともあり、本年度、社内で発足しましたエコチームによって、調査を行ってまいりました。

■調査の結果

この調査の結果、現在、ほとんどの自治体でガラスびんの分別回収が行われ、ガラス瓶はカレット*としてリサイクルされるようになっております。これよりお客さまには各自治体のルールに従って処理をお願いすることのほうが、環境負荷の低減になることがわかりました。

*カレット:リサイクルするためにガラスを破碎した状態のもの

地域内での洗瓶リユースは環境負荷を下げますが、当社の場合、全国からの回収輸送を考慮しますと必ずしも環境負荷の低減にはつながっていないことがわかりました。また、市内の回収分につきま

しても、最も近い洗瓶業者は秋田県湯沢市にありその往復の輸送費も考慮すると、全量をカレットリサイクルとすることの方が、トータルの環境負荷低減につながるようになりました。

■ 調査結果を受けての対応

上記調査の結果、当社の場合は、軽量のワンウェイびんを使用したリサイクルシステムの方がトータルとしての環境負荷の低減を図ることができると考えました。

以上のことから、みなさまには空瓶は各自治体のルールに従って分別処理をお願いいたします。当社においてもガラス瓶は、ガラスメーカーへカレットとして引き渡します。（これによる当社の利益はありません）

また、ガラス瓶製造における環境負荷を軽減するため、ワンウェイ用の軽量瓶に変更いたします。

今後もガラス瓶のカレット処理について学び、より環境への負荷を軽減する方法を考えていきます。そして、今回の変更により当社としてコストダウンとなるため、関係機関と相談させていただきながら岩手県内の環境保護活動に対して生産1本につき1円を寄付いたします。

なにとぞ、皆様のご理解、ご協力を賜れますようお願いいたします。

なお、6月1日実施としておりますが、資材など順次の切り替えとなりますので店頭において、ラベル表記にリユースをしている旨が残っている製品が当面の間は残る見込みです。ご了承ください。

より詳しい説明をご希望の方は、当社までお問い合わせください。019-606-0766 担当:木村

以上